

福井県坂井市三国町方言におけるナ形容詞

2017年（平成29年）入学

言語学・応用言語学専門分野

高島 麻緒

2021年（令和3年）1月提出

要旨

本論文の目的は、福井県坂井市三国町方言（以下、三国町方言）のナ形容詞の活用を記述することである。福井県内の方言は最も大きく分けて、嶺北地方の嶺北方言と嶺南地方の嶺南方言に二分される。その方言境界は南条郡南越前町と敦賀市の市町境とほぼ一致する。三国町方言は嶺北方言に入る。嶺北方言に関しては、音韻体系の研究は盛んに行われているものの、形態的な記述に関する研究は少ない。今尾（2009）が坂井市丸岡町方言におけるナ形容詞の活用を記述しているが、語幹の設定の問題を含む形態論的な考察に一貫性がなく、一方で無駄も多い記述となっている点で問題があり、そのまま三国町方言の記述に応用することはできない。

そこで本研究は、今尾（2009）の記述の枠組みを修正しつつ、三国町方言のナ形容詞の形態論に関して以下のことを示す。

- (1) ナ形容詞の語根は自由形態素で、それにコピュラの=naが付属語として接続していると考えることで、自由形態素の語根がコピュラとしてナとヤとデの3形式を選択していると見る。よって、今尾の分析のようにナ形容詞が「ナ型」と「ヤ型」の2種類の「活用」を行うのではなく、語根{=ナ/=ヤ/=デ}のコピュラの選択が統語環境によって決ると分析する。
- (2) 今尾のいう「ナ型」における、ナ形容詞がイ形容詞のように活用するパターン、例えば「キレイナカッタ」のような例については、ナ形容詞の「語根=na」にイ形容詞派生接辞/-kar/が付き、これが全体としてイ形容詞のように活用したものと考える。
- (3) 「好き」「嫌い」「無理」といった特殊なナ形容詞は、自由形態素の語根がコピュラとしてヤとデを選択する。連体形のみ、コピュラとしてナをとることができる。「嫌」という特殊なナ形容詞は、ナ形容詞の中で唯一活用する。終止形のコピュラが「=ya」となる活用の他に、過去形においてはこれらの語根に(2)にみる-kar(イ形容詞派生接辞)がつき、イ形容詞として活用する。

目次

1.はじめに	1
1.1. 福井県の方言区画	1
1.2. 三国町方言について	1
2. 三国町方言の音韻と表記	1
3. これまでの記述の問題点	2
3.1. 丸岡町方言のナ形容詞	2
3.2. 北陸諸方言のナ形容詞	5
3.2.1. 富山県笹川方言におけるナ形容詞	5
3.2.2. 石川県小松市松岡町方言におけるナ形容詞	7
3.2.3. 福井県大野市方言におけるナ形容詞	8
4. 三国町方言におけるナ形容詞の活用の記述に向けて	9
4.1.用語	9
4.2.調査概要	9
4.3.調査に使用する語幹	10
4.4.例文の表示方法	10
5. 三国町方言におけるナ形容詞	10
5.1.ナ形容詞を「語根+コピュラ」と捉える	10
5.2.「～ナカッタ」「～ナカロー」などの形式の分析	<u>12</u> <u>11</u>
5.3.三国町方言におけるナ形容詞の活用	14
6. まとめと今後の課題	17
付録	19
参照文献	30
グロス一覧	31

1.はじめに

本論文の目的は、福井県坂井市三国町方言（以下、三国町方言）のナ形容詞の活用を記述することである。本章では、福井県の方言区画と三国町方言について述べる。

1.1. 福井県の方言区画

福井県の方言は大きく分けて、県北東部（嶺北地方）の嶺北方言と県南西部（嶺南地方）の嶺南方言に二分される。その方言境界は南条郡南越前町と敦賀市の市町境とほぼ一致する。東条（1954）の方言区画によると、嶺北地区を西部方言の北陸方言の中に入れ、嶺南地区を西部方言の中の近畿方言の中に入れる。さらに、嶺北の内部の区画は、坂井郡より福井市・鯖江市・武生市およびその近隣の平野地帯、勝山市・大野市の奥越地区、越前海岸の一帯、南条町・今庄町の4つに大きく分けられる（佐藤 1983）。

1.2. 三国町方言について

坂井市は福井県の北部に位置し、2006年3月20日に坂井郡の三国町・丸岡町・春江町・坂井町の4町が合併して誕生した。市の南部を九頭竜川が、北部を東部の森林地域を源流とする竹田川が流れ、西部で合流し日本海に注ぎ込んでいる。中部には福井県随一の穀倉地帯である広大な坂井平野が広がり、西部には砂丘地および丘陵地が広がる。

調査地点である三国町は、九頭竜川の河口周辺に位置しており、南東部に平地が広がるが、町全体的には起伏が多く、南部海岸近くは砂丘となっている面積 46.42 km²、人口 20,850 人（2020年12月1日時点）の港町である。福井市中心部からは北へ約 20 km の距離にある。越前がにの水揚げや東尋坊、雄島、越前松島と景勝が続く海岸などがあり、観光に訪れる人が多い。

本論文が研究対象とする三国町方言のナ形容詞の活用を詳しく扱った先行研究は存在しないが、坂井市の方言に関しては、今尾（2009）が丸岡町方言のナ形容詞の活用形式とその使い分けについて記述している。また、新田（2011）が三国町安島方言における重子音について、松倉（2018b）が三国町安島方言の三型アクセント体系について記述している。

2. 三国町方言の音韻と表記

本論文では、三国町方言の子音音素を以下の表1、母音音素を表2のように設定する。なお、表1、表2は佐藤（1983）の仮名に基づいた音韻分析を音素に転写したものである。

表 1.子音音素表

	両唇	歯茎	硬口蓋	軟口蓋	声門
閉鎖音	p b	t d		k g	
摩擦音		s z			h
鼻音	m	n			
はじき音		r			
接近音	w		y		

表 2.母音音素表

	前舌	後舌
狭	i	u
半狭	e	o
広		a

3. これまでの記述の問題点

本論文で扱う三国町方言のナ形容詞の活用を詳しく扱った先行研究は存在しないが、同じ坂井市内の丸岡町方言のナ形容詞の活用を示した今尾(2009)がある。本章では今尾(2009)の概略を示しながら、坂井市諸方言のナ形容詞の特徴を述べるとともに、分析上の矛盾や問題点を指摘する。

3.1. 丸岡町方言のナ形容詞

丸岡町方言のナ形容詞には、概略以下のようないくつかの特徴があるという。これらの特徴は本論文で詳しく扱う三国町方言にも概ね当てはまる。

- (4) 同じ語幹が 2 つの異なる活用「ナ型」活用と「ヤ型」活用を行う。例えば、「この桜、綺麗だなあ」は、以下の 2 つのパターンを持つ。
- コノ桜、キレイナワー。(今尾 2009:2 (2)) 筆者一部変更
 - コノ桜、キレイヤワー。(今尾 2009:2 (6))

(4a)に示すように、ナ型活用において語幹キレイに後続するナは、標準語におけるナ形容詞のコピュラ連体形に対応し、(4b)のヤは西日本方言で広くみられるコピュラの終止形で、標準語における終止形ダに対応する。

ただし、丸岡町方言ではコピュラの連体・終止の区別が完全になくなっているわけではないようである。今尾のデータによると、以下の(5)に示すように、連体節における活用はナ型活用のみ可能となる。

(5) 例えば、「綺麗な桜だねえ」は以下のようになる。

キレイナ桜ヤノー。(今尾 2009:2 (3),(7))

この言語事実から、丸岡町方言のナ形容詞で生じていることは、一見すると以下のようにまとめられそうである。すなわち、ナ形容詞語幹に後続するコピュラの連体形ナ・終止形ヤの区別に関して、連体節内ではこの区別が厳密に守られる一方、文末終止においてはナもヤも使用可能である、という分析が成り立つように見える。

しかし、今尾の挙げるナ型の活用表（表3）から、この分析、すなわち本来は終止形ヤの領域だったところに単にナが現れるような現象ではないことがわかる。語形末尾に*をつけた形式は、ヤを単にナに置き換えたものではない。むしろ、キレイナ全体で1つの語幹として再分析されている現象と見た方が良さそうである。例えば、終止形過去のキレイナカッタはキレイナがイ形容詞語幹のように働き、テンスで屈折している。さらに、丁寧体の終止形非過去のキレイナデスは、ヤが出現できないところにナが出現している。これらの事実から、今尾はキレイナ全体を語幹と見た語形変化という分析をとり、表3のような記述を行なっている。

表3 丸岡町方言のナ型（上段）とヤ型（下段）の対照（今尾2009より筆者一部改変）¹

活用型	テンス	普通体		丁寧体	
		肯定	否定	肯定	否定
語幹 キレイナ（ラシイ）					
終止形	非過去	キレイナ（ワ/ノ） キレイヤ	キレイデネ キレイデナイ	キレイナデス* キレイデス	キレイデナイデス キレイデナイデス
	過去	キレイナカッタ* キレイヤッタ	キレイデナカッタ キレイデナカッタ	キレイナカッタデス* キレイヤッタデス	キレイデナカッタデス キレイデナカッタデス
連体形	非過去	キレイナ（人） キレイナ（人）	キレイデナイ（人） キレイデナイ（人）	—	—
	過去	キレイナカッタ（時）* キレイヤッタ（時）	キレイデナカッタ（時） キレイデナカッタ（時）	—	—
条件形	キレイナナラ* キレイナラ	キレイデネーナラ キレイデネーナラ	—	—	—
	キレイナカッタラ* キレイヤッタラ	キレイデナカッタラ キレイデナカッタラ	—	—	—

¹ 今尾(2009)によると、「ナ型」活用について、ナによって言い切ることはできず、終助詞「ワ」か「ノ」の付加が義務的である。

今尾はさらに、「嫌（だ）」を意味するイヤについても同様に、これが語幹のように振舞う活用パターン（表4において*で標示）と、コピュラのヤを伴った活用（ヤ型）の2つが併存することを報告している。今尾は前者を「ゼロ型」の活用と呼ぶ。

表4. 丸岡町方言のゼロ型（上段）とヤ型（下段）の対照（今尾2009より筆者一部改変）

活用型	テンス	普通体		丁寧体	
		肯定	否定	肯定	否定
語幹 イヤ（ラシイ）					
終止形	非過去	イヤ（ワ） イヤヤ（ワ）	イヤデネー/ナイ イヤデネー/ナイ	イヤデス イヤデス	イヤデナイデス イヤデナイデス
	過去	イヤカッタ* イヤヤッタ	イヤデナカッタ イヤデナカッタ	イヤカッタデス* イヤヤッタデス	イヤデナカッタデス イヤデナカッタデス
	非過去	イヤナ（人） イヤナ（人）	イヤデナイ（人） イヤデナイ（人）	—	—
	過去	イヤカッタ*（時） イヤヤッタ（時）	イヤデナカッタ（時） イヤデナカッタ（時）	—	—
連体形	非過去	イヤナラ イヤナラ	イヤデネーナラ イヤデネーナラ	—	—
	過去	イヤカッタラ* イヤヤッタラ	イヤデナカッタラ イヤデナカッタラ	—	—
	非過去	イヤナラ イヤナラ	イヤデネーナラ イヤデネーナラ	—	—
	過去	イヤカッタラ* イヤヤッタラ	イヤデナカッタラ イヤデナカッタラ	—	—

上記の今尾の記述には、当方言の言語体系の記述としても、またのちに扱う三国町方言のナ形容詞の分析に応用するモデルとしても、いくつかの問題がある。

1点目として、記述の一貫性の問題がある。キレイを例にとると、ナ型の活用（表3の各セルの上段）においては語幹をキレイナとしておきながら、活用語形においてナが生じない場合もある（例：終止形非過去肯定キレイナに対する否定キレイデネ）。しかも、ナの削除規則などは想定されていない。このことは、語幹の設定に問題があることを示唆する。

2点目として、ナ型と異なる活用型とされるヤ型と、大部分の活用形が同形となっているという問題がある。例えば、連体形非過去肯定はいずれの型でもキレイナであるし、否定系は全て同形となっている。このことから、2つの活用型を設定するのは明らかに無駄であり、別の整理の仕方がありうることを示唆する。

上記2つの問題は、キレイナやキレイヤにおけるナとヤを、ナ形容詞の語形とは別の語、すなわちコピュラだと見ることで解決できる可能性が高い。連動して、キレイデネなども、キレイにコピュラの連用形デが接続していると見ることになる。1点目の問題について、終止形非過去肯定はキレイ=ナという構造と分析され、自由形態素のキレイに、コピュラの=

ナが付属語として接続していると考えることになる。これにより、終止形非過去否定は単にキレイに、コピュラの連用形=デと否定の語ネが接続していると考えれば済む。

2点目の問題について、自由形態素のキレイがコピュラとしてナとヤとデの3形式を選択していると見ることが可能となり、「キレイナ」の活用と「キレイヤ」に活用のパターンに2種類あるのではなく、キレイ{=ナ/=ヤ/=デ}のコピュラの選択が、統語環境によって決まると言えることができるようになる。終止形の肯定や連体形の過去肯定では=ナと=ヤがいずれも選択可能だが（例：キレイ{=ナ/=ヤ/*=デ}=ワ）、連体形の非過去肯定では=ナだけが選択され（キレイ{=ナ/*=ヤ/*=デ}（人））、否定では=デのみが選択される（キレイ{*=ナ/*=ヤ/=デ}ナイ）。

一方で、このように考えた場合、キレイナカッタのような例（表3で*で記した例）をどう分析するかという問題が生じる。さらに、ゼロ型とされるイヤについては、そもそもコピュラが生じないので、キレイナの問題と並行的に解決することが難しそうである。

このように、今尾の分析をそのまま前提として使うには問題があるものの、単純にナやヤをコピュラとして形容詞語形から切り離し、これらの活用の問題とすることにも問題があることがわかる。

本論文では、三国町方言のナ形容詞の記述を通して、丸岡町方言の上記の記述を含む、当該地域のナ形容詞の語形変化の問題に対してより適切な分析を提案することを目指す。

3.2. 北陸諸方言のナ形容詞

先行研究の問題点を解決するために参考とする、北陸諸方言のナ形容詞の記述を以下にまとめる。

3.2.1. 富山県笹川方言におけるナ形容詞

小西（2001）によると、富山県笹川方言（以下、笹川方言）のナ形容詞述語形式（表5）には、名詞述語と同形の「～ジャ/ジャッタ/ジャロー」等とともに、名詞述語とは異なる「～ナ/ナカッタ/ナカロー」等がある。

(6) 「あそこは静かだねえ」は以下の2パターンが見られる。

- a.アカ シズカナネー。（小西 2001:34 (7)) 筆者一部変更
- b.アカ シズカジャネー。（小西 2001:34 (7)) 筆者一部変更

(6a)に示すように、語幹シズカに後続するナは、標準語におけるナ形容詞のコピュラ連体形に対応し、(6b)のジャは西日本方言で広くみられるコピュラの終止形で、標準語における終止形ダに対応する。(6a)の特徴は三国町方言でも見られ、(6b)の特徴は(4b)にあるように今尾（2009）のいう丸岡町方言の「ヤ型」と概ね一致し、笹川方言のナ形容詞の活用のしかたは、福井県坂井市諸方言のナ形容詞に類似していることがわかる。

本論文で問題となる「～ナカッタ」「～ナカロー」の形式について、小西は、少なくとも

通時的にはイ形容詞の述語形式「～カッタ/カロー/…」の再分析によって「カッタ/カロー/…」が析出され、それがナ形容詞の「～ナ」形に付いて成立したと考えられるという。そして、恐らく共時的にも、これらの述語形式は「語幹+語尾ナカッタ/ナカロー/ナカレド/ナケリヤ」と分析すべきではなく、ナ形容詞の「～ナ」形に、付属的な用言/kar/（カッタ/カロー/カレド/ケリヤ）が付いたものと考えられるとしている。

表5. 笹川方言のナ形容詞述語形式概観（小西 2001 より筆者一部改変）

ナ形容詞			
シズカ'（静か）		構文上の用法や意味、+後続句	
～ジャ	～ナ	終 止	非過去・断定（非推量）
～ジャッタ	～ナカ'ッタ		過去
～ジャロ'（一）	～ナカロ'（一）		推量
～ジャレ'ド	～ナカレ'ド	条	逆接確定条件
2～ナラ	³ ～ナケリヤ'	件	順接仮定条件
～ナ		+体言 +ヨー'ナ・ヨー'ジャ（様態） +ガ（準体助詞）	
～ナ		+カ・ケ（疑問） +ヤ'ラ（助詞） +カ'モシレ'ン（かもしれない） +ミタイナ・ミタイジャ（みたいだ） +ヤ（詠嘆）	
～デ		中止（～で/～く（て））	
～ジャ ～デ		+ナ'イ（否定「ない」）	
～ニ		+ナ'ル（なる） +ス'ル（する） +その他の動詞（「静かに動く」「高く上げる」など、副詞的修飾のとき）	

この分析では、<過去><推量><逆接確定条件><仮定条件>といった文法的意味は、それぞれ「カッタ」「カロー」「カレド」「ケリヤ」が表しているとみなしている。つまり、ナ形容詞自体がテンスやムードといった文法的（形態論的）カテゴリーを分化させているの

² 前接語が有アクセント核のとき～ナラ、無核のとき～ナ'ラ

³ ～ナケ'リヤというアクセントもある

ではないということである。小西（2001）はこの解釈の根拠として、「～ナカッタ」「ナカロー」などの形式が、韻律的に「～ナ」と「カッタ/カロー/…」という二つの単位から成ることを挙げている。これらの形式は、「シズカ'ナカ'ッタ」「シズカ'ナカ'ロー」（'は下降の位置）など、二つのアクセント単位から成る。その単位の区切りが「シズカ」の後ではなく「シズカナ」の後にあるとみなす理由は、「シズカ'ナ, カ'ッタ」「シズカ'ナ, カ'ロー」のように、「～ナ」の後にポーズを置くことがあるためであるとしている。また、ポーズは任意のものではなく、形態論的な単位の区切りを示すと考えられ、このようなポーズが許されることから、語幹と「ナ」の結び付きよりも、「ナ」と「カッタ/カロー/…」の結び付きのほうが緩いことを示唆すると述べる。ゆえに、「カッタ/カロー/…」は、ナ形容詞の「語尾」ではなく、テンスやムードの分化のために必要とされる付属的な用言とみなすほうが適当であるとしている。

しかし、この小西（2001）の主張にある、付属的な用言/kar/（カッタ/カロー/カレド/ケリヤ）という表現からは、当該の形式が形態論的にいかなるステータスを持っているかが曖昧である。すなわち、これは語なのか、あるいは接語なのか、不明である。用言という国文法の用語から、当該形式が活用する形式、すなわち語（国文法では自立語ないし付属語）と見ことになるが、厳密な議論はない。

よって、本論文で三国町方言におけるナ形容詞の活用を分析する際に、「～ナカッタ」「～ナカロー」などの形式について再検討する必要がある。

3.2.2. 石川県小松市松岡町方言におけるナ形容詞

小西（2005）によると、石川県小松市松岡町方言（以下、松岡町方言）のナ形容詞諸形式（表6）には以下のような特徴があるという。まず、「～ナ」の形が連体法だけでなく、終止法や、理由・逆接の接続助詞や伝聞の助動詞が後接することがある。その場合、助詞の「カ」「ヤラ」が後接する場合も、名詞述語と同じ形とともに使われる。「～ナ」の用法の範囲は、イ形容詞の「～イ」形の範囲と等しい。次に、推量・過去・仮定表現の肯定において、名詞述語と同形の「～ヤロー/ヤッタ/ナラ」の形とともに、「～ナカロー/ナカッタ/ナケリヤ」という「～ナ+イ形容詞活用語尾」が使われる。

小西（2005）は、この松岡町方言のナ形容詞の活用のしかたは、小西（2001）の示した富山県笹川方言のナ形容詞とよく似ていると述べている。笹川方言では、「～ナ+イ形容詞活用語尾」の形は「シズカ'ナカロー」「シズカ'ナカ'ッタ」のように2アクセントになるが、この点も松岡町方言は同じである。ただし、笹川方言では、助詞「カ」「ヤラ」が接続する際には、「シズカナカ」のように「～ナ」に接続する形が普通であるが、松岡町方言では語幹に接続する形（例「シズカカ」）も併用される点が異なる。

本論文で扱う三国町方言においても、松岡町方言とよく似て「～ヤロー/ヤッタ/ナラ」の形とともに、「～ナカロー/ナカッタ/ナラ」の形が見られる。また、三国町方言でも語幹に助詞が接続する形も併用されるため、笹川方言よりも松岡町方言とのほうがより類似して

いると考える。

表 6. 松岡町方言におけるナ形容詞述語形式概観（小西 2005 より筆者一部改変）

ナ形容詞 sizuka (静か)		
-ja	-na	終止（一だ）
-jaroo	-nakaroo	推量（一だろう）
-jaQ	-nakaQ	+ta (過去)
-nara	-nakerja	仮定（一なら） ⁴
—	-na	+ka (疑問)、+jara
-na		+na (一なの：準体)
-na		連体
-de		中止
-de		+nai/nee (否定)
-ni		+naru
—		+sugiru +sooja/soona (一そうだ：様態)

3.2.3. 福井県大野市方言におけるナ形容詞

松倉（2018a）は福井県大野市方言（以下、大野市方言）のナ形容詞の活用を以下のように示している。大野市は坂井市と同じく嶺北地区に位置するが、佐藤（1983）の嶺北方言の下位分類によると、本論文で扱う三国町方言とは区別されている。松倉（2018a）は大野市方言のナ形容詞述語形式の概観を以下の表7のように記述している。

松倉（2018a）の記述において、今尾（2009）や小西（2001）、小西（2005）で記述されていた「～ナカッタ」「～ナカロー」などの形式は見られないが、「～ヤッタ」「～ヤロー」などの形式は本論文で扱う三国町方言に概ね当てはまる。

表 7. 大野市方言におけるナ形容詞述語形式概観（松倉 2018a より筆者一部改変）

		静か (だ)
終止類	断定非過去	シズカナ
	断定過去	シズカヤッタ
	推量	シズカヤロ
接続類	連体非過去	シズカナ
	連体過去	シズカヤッタ

⁴ <過去形+tara>もある

	中止	シズカデ
	仮定	シズカヤッタラ シズカナラ
派生類	否定	シズカデナイ
	なる	シズカンナル
	丁寧	シズカデス
	のだ	シズカナンヤ シズカナンニヤ

4. 三国町方言におけるナ形容詞の活用の記述に向けて

本章では、本論文で用いる語の定義と調査概要を示す。

4.1.用語

まず、本論文では「ナ形容詞」という用語を使う。ナ形容詞とは、学校文法で形容動詞と呼ばれるものである。ナ形容詞は語根が自由形態素で、それにコピュラ動詞が接続し、コピュラ動詞が活用するものが多い。しかし、コピュラ動詞の活用が、通常の名詞述語での活用と異なることが普通である。標準語において、連体形=na と終止形=da が区別される。本論文で対象とする三国町方言では、=na と=ya が文終止に用いられる。そして、本論文では、学校文法で形容詞とよばれるものを「イ形容詞」と呼ぶ。

次に、本論文では八亀 (2008) が恒常的特性か一時的現象かという「時間的限定性」と「評価」を軸に整理した形容詞の分類にならって、特性形容詞と状態形容詞を区別する。「すきな」「きらいな」などのナ形容詞を特殊な特性形容詞とする。八亀 (2008) は、時間的限定性なしの特性形容詞を、従来の属性形容詞が大半を占める A グループと、「すきな」「きらいな」など話し手の好悪を表す B グループに分けた。特性形容詞と状態形容詞の両側面を持つ C グループ、そして時間的限定性ありの状態形容詞を、特性形容詞に分類されていた D グループといわゆる感情形容詞が大半を占める E グループに分けた。

4.2.調査概要

本論文の記述は坂井市三国町生まれの KT 氏 (50 代女性) への調査表を用いた面接調査と、同じく坂井市三国町生まれの YN 氏 (50 代男性) への電話での調査に基づく。KT 氏は言語形成期の後に福岡県に移り、約 30 年生活している。YN 氏は言語形成期の後に福井県大野市に移り、約 30 年生活している。調査表を用意し、筆者が標準語で例文を発話したあと、話者に三国町方言で発話してもらう形をとった。本論文における出典の記載のない例文は、聞き取り調査を通じて得られたものである。12 種類の語彙について、終止、否定、連

体、推量の非過去、過去について聞き取りを行った。また、仮定、中止、「一ニナル」への接続、推定、「一スギル」への接続、疑問についても聞き取りを行った。なお、今回の調査では普通体のみに絞って調査を行っている。

4.3.調査に使用する語幹

記述に際して用いるナ形容詞語幹を表8に示す。

表8. 調査語彙

語幹のモーラ数	語幹	標準語
2モーラ	iya	嫌な
2モーラ	suki	好きな
2モーラ	genki	元気な
2モーラ	raku	楽な
2モーラ	muri	無理な
3モーラ	kirai	嫌いな
3モーラ	sizuka	静かな
3モーラ	kirei	綺麗な
3モーラ	mazime	真面目な
4モーラ	sinpai	心配な
4モーラ	zeetaku	贅沢な
4モーラ	nigiyaka	賑やかな

4.4.例文の表示方法

本論文では、例文を(7)のように表記する。

- (7) 1行目 音韻表記
 2行目 形態素分析
 3行目 形態素ごとのグロス
 4行目 標準語訳

5. 三国町方言におけるナ形容詞

5.1.ナ形容詞を「語根+コピュラ」と捉える

3.1節において、先行研究である今尾(2009)の問題点の1点目に語幹の設定に問題があることを挙げた。2点目として、ナ型と異なる活用型とされるヤ型と、大部分の活用形が同

形となっているという問題を挙げた。

そこでこれらの問題を解決するために、まず、ナ形容詞が自由形態素の語根にコピュラの=naが付属語として接続しているものだと考えることで解決する。例えば、「綺麗」というナ形容詞について、キレイナやキレイヤにおけるナとヤを、ナ形容詞の語形とは別の語、すなわちコピュラだと見る。終止形非過去肯定はキレイ=ナという構造と分析する。また、このように考えることで、3.2 節で指摘した小西（2001）の問題の解決にもつながる。付属的な用言という/kar/が語なのか接語なのか、あるいは接辞なのかという解釈を再分析する際に、コピュラの=na と/kar/の間に何かを挟んだり、入れ替えたりすることができるかどうかをテストすることで/kar/を形態論的に位置付けることが可能になるからだ。

下地（2020）は、接辞か接語かが問題となる要素 X が、多様な要素につくのであれば、それは接辞ではあり得ない（接語である）と証明できるとし、その逆の「接語ならば、多様な要素につく」という命題は必ずしも真ならずであると述べる。

下地（2020）が示すように、以下に、=na が語であることを、「X と Y」テストに類する「X で Y」テストで証明する。

- (8) a. 「静かで真面目な人」
b. 「真面目で静かな人」
c. 「好きで楽な仕事」
d. 「楽で好きな仕事」
e. 「嫌で心配な病気」
f. 「心配で嫌な病気」
g. 「無理で嫌いな仕事」
h. 「嫌いで無理な仕事」
i. 「綺麗で贅沢な食事」
j. 「贅沢で綺麗な食事」
k. 「元気で賑やかな職場」
l. 「賑やかで元気な職場」

(8a) は (8b) と、(8c) は (8d) と、(8e) は (8f) と、(8g) は (8h) と、(8i) は (8j) と、(8k) は (8l) とそれぞれ言い換えることができる。このテストで、(8a) の「静か」「で」「真面目」「な」の 4 要素はそれぞれ語であることができ、(8) のその他の例文においても同様に語を認定することができる。ゆえに、ナ形容詞の語根は自由形態素であり、それにコピュラの=na が付属語として接続していると考えられる。

5.2. 「～ナカッタ」「～ナカロー」などの形式の分析

ナ形容詞の語根は自由形態素で、それにコピュラの=na が付属語として接続していると考えることにより、問題点の1点目は解決される。2点目の問題について、自由形態素の語根がコピュラとしてナとヤとデの3形式を選択していると見ることが可能となり、「ナ型」と「ヤ型」に活用が2種類あるのではなく、語根{=ナ/=ヤ/=デ}のコピュラの選択が、統語環境によって決まると言えるようになる。終止形の肯定や連体形の過去肯定では=ナと=ヤがいずれも選択可能だが（例：キレイ{=ナ/=ヤ/*=デ}=ワ）、連体形の非過去肯定では=ナだけが選択され（キレイ{=ナ/*=ヤ/*=デ}（人））、否定では=デのみが選択される（キレイ{*=ナ/*=ヤ/=デ}ナイ）。

一方で、このように考えた場合、キレイナカッタのような例（表3で*で記した例）をどう分析するかという問題が生じる。この問題については、小西（2001）と小西（2005）の分析についても検討を加え、ナ形容詞の語根に接続するコピュラ「=na」が、イ形容詞のように活用していると考えることで解決する。

小西（2001）において、「～ナカッタ」「～ナカロー」などの形式は、「語幹+語尾ナカッタ/ナカロー/ナカレド/ナケリヤ」と分析すべきではなく、ナ形容詞の「～ナ」形に、付属的な用言/kar/（カッタ/カロー/カレド/ケリヤ）が付いたものと考えられるとしている（3.2節）。この分析では、<過去><推量><逆接確定条件><仮定条件>といった文法的意味は、それぞれ「カッタ」「カロー」「カレド」「ケリヤ」が表しているとみなす。

3.2節で指摘したように、小西（2001）の解釈は、付属的な用言という用語を形態論的に厳密に位置付けていない点が問題である。すなわち、当該形式/kar/が語なのか接語なのか、あるいは接辞なのかという問題がある。

ある形式が接辞なのか語（接語）なのかという問題は形態的自立性に関わり、ある形式が接辞（接語）なのか語なのかという問題は音韻的自立性に関わる（下地2018、2020）。

表9.形態統語的自立性と音韻的自立性（下地2018より引用）

		音韻的に	
		自立	従属
形態統語的に	自立	語	接語
	従属	複合語幹	接辞

三国町方言のナ形容詞 kireinakatta「綺麗だった」を、形態的自立性の観点から見ると、コピュラ=na と/kar/の間に何かを挟んだり、入れ替えたりすることはできない。しかも、この形式は拘束語根にもつく（イ形容詞語幹の taka-など）。よってこれは語や接語ではないと考えられる。

一方で、音韻的自立性の観点から見ると、小西の記述する 笹川方言と同様、普通の発話では kirei-na-katta のようになり、注意深い発話では/kar/以降が韻律的に自立して kirei-na

katta のようになる。インフォーマントが筆者に分かるように発音するときに、小西(2001)が示すようなポーズが見られ、また、筆者が「シズカ', ナカ'ッタ」のように発音すると、「シズカ'ナ, カ'ッタ」と訂正された。しかし、この注意深い発話は、「静かだった」という過去肯定の文を、「静かがなかった (=静かでなかった)」という「静か+ナイ(否定)」の過去否定と捉えるような発音だったため訂正された際の発話である。このように、/kar/は接辞(音韻的に従属的)である場合と、表でいう「音韻的に自立かつ形態的に従属」の場合があるということである。後者は、語でも接語でも接辞でもない形式である。これを今、音韻自接辞と呼ぶことにする。上記をまとめると、問題の形式/kar/は語でも接語でもなく、接辞と考えられ、通言語的にみて普通の、すなわち音韻的に従属的な接辞として実現する場合と、音韻的に自立した接辞として実現する場合があると考える。

これを踏まえた上で、「～ナカッタ」「～ナカロー」「～ナカレド」「～ナケリヤ」の形はそれぞれ以下の(14)～(17)のように分析できると考える。まず、通常のイ形容詞(例:高い)の考察から、-katta, -karoo, -karedo, -kerya はそれぞれイ形容詞の屈折語尾と考えられる。

(9) taka-i

高い-INF

「高い」

(10) taka-katta

高い-PST

「高かった」

(11) taka-karoo

高い-CONJEC

「高いだろう」

(12) taka-karedo

高い-CONC

「高いけれど」

(13) taka-kerya

高い-kerya

「高ければ」

その上で、ナ形容詞に関する「～ナカッタ」「～ナカロー」「～ナカレド」「～ナケリヤ」

諸形式は、コピュラがイ形容詞語幹として機能し、それが活用したものと考える(例:静か)。

(14) sizuka=na-katta

静か=COP-PST

「静かだった」

(15) sizuka=na-karoo

静か=COP-CONJEC

「静かだろう」

(16) sizuka=na-karedo

静か=COP-CONC

「静かだけれど」

(17) sizuka=na-kerya

静か=COP-CND

「静かなら」

さらに、先行研究においてゼロ型とされるイヤについては、そもそもコピュラが生じないので、ナ形容詞の中で唯一活用するものと考える。

5.3.三国町方言におけるナ形容詞の活用

以上の分析から、三国町方言におけるナ形容詞のコピュラの活用を以下の表10にまとめると

表10.三国町方言におけるナ形容詞のコピュラの活用

統語環境	ナ形容詞のコピュラの活用	
終止形の肯定	「好き」「嫌い」「無理」 「嫌」以外のナ形容詞	=na, =ya
	ナ形容詞「好き」「嫌い」「無理」「嫌」	=ya
連体形の非過去肯定	=na	
連体形の過去肯定	=ya	
否定	=de	
条件形 (=nara) 肯定	「好き」「嫌い」「無理」 「嫌」以外のナ形容詞	=na, =φ

	ナ形容詞「好き」「嫌い」「無理」「嫌」	=ya
条件形 (=tara) 肯定	「好き」「嫌い」「無理」「嫌」以外のナ形容詞	=na,=ya
	ナ形容詞「好き」「嫌い」「無理」「嫌」	=ya
推量の非過去・過去肯定	「好き」「嫌い」「無理」「嫌」以外のナ形容詞	=na, =ya
	ナ形容詞「好き」「嫌い」「無理」「嫌」	=ya
疑問の肯定	「好き」「嫌い」「無理」「嫌」以外のナ形容詞	=na, = ϕ
	ナ形容詞「好き」「嫌い」「無理」「嫌」	= ϕ
「—スギル」「—ニナル」 への接続・様態・中止		= ϕ

・終止は「=na」よりも「=ya」、過去は「=na-kaQta」よりも「=yaQta」、仮定は「=na-kaQta」よりも「=yaQta」を多用する。

・現在では、高齢者層以外の年齢層では、終止「=na」や過去「=na-kaQta」といった活用はほぼ用いない。

今尾（2009）は、「ナ型」の過去連体形は「一ナカッタ」となると述べているが、今回の調査から、その表現は不自然であることが明らかとなった。過去や仮定（「+tara」）において「=na-kaQta」となることは確認された。

(18)	kiree{yatta/*nakatta}	heyaga	moo	kitanai.
	kiree{=yaQta/*=na-kaQta}	heya=ga	moo	kitana-i
	綺麗=COP-PST	部屋=NOM	もう	汚い-INF
「綺麗だった部屋がもう汚い。」				

「嫌」のみ、過去・仮定で「-kaQta」という活用が見られた。今回調査した、語幹が2モーラの感情形容詞を含む他のナ形容詞では「-kaQta」という形は一切見ることができなかつた。

以下に、調査例文を示す。

(19) 非過去肯定

suieewa	iya{ya/*na/*wa}.
suiei=wa	iya{=ya/*=na/*=wa}
水泳=TOP	嫌{=COP/*=COP/*=SFP}

「水泳は嫌だ。」

(20) 過去肯定

suieewa	iya{yatta/katta/*nakatta}.
suiei=wa	iya{=yaQta/-kaQta/*=na-kaQta}
水泳=TOP	嫌{=COP-PST/-PST/*=COP-PST}

「水泳は嫌だった。」

(21) 非過去連体形

iyana	otoga	suru.
iya=na	oto=ga	su-ru
嫌=COP	音=NOM	する-NPST

「嫌な音がする。」

(22) 過去連体形

iya{yatta/-katta/*nakatta}	undou	suru.
iya{=yaQta/-kaQta/*=na-kaQta}	undou=o	su-ru
嫌{=COP-PST/-PST/*=COP-PST}	運動=ACC	する-NPST

「嫌だった運動をする。」

(23) 非過去推量

samui	hino	gaisyutuwa	iya{yaroo/*nayaroo}.
samui	hi=no	gaisyutu=wa	iya{-yaroo/*=na-yaroo}
寒い.ADN	日=GEN	外出=TOP	嫌{=CONJEC/-COP-CONJEC}

「寒い日の外出は嫌だろう。」

(24) 過去推量

samui	hino	gaisyutuwa	iya{yatta/katta/*nakatta}yaroo.
samui	hi=no	gaisyutu=wa	iya{=yaQta/-kaQta/*=na-kaQta}-yaroo.
寒い.ADN	日=GEN	外出=TOP	嫌{=COP-PST/-PST/*=COP-PST}-CONJEC

「寒い日の外出は嫌だっただろう。」

(25) 仮定 (「=dat-tara」)

gaisyutuga	iya{yatta/katta/*nakatta}ra	ieni	iro.
gaisyutu=ga	iya{=yaQta/-kaQta/*=na-kaQta}-ra	ie=ni	ir-o
外出=NOM	嫌{=COP-PST/-PST/*=COP-PST}-CND	家=DAT	いる-IMP
「外出が嫌だったら家にいろ。」			

(26) 非過去疑問

gaisyutuwa	iyaka.
gaisyutu=wa	iya-ka
外出=TOP	嫌-Q
「外出は嫌か。」	

(27) 過去疑問

gaisyutuwa	iya{yatta/katta/*nakatta}ka.
gaisyutu=wa	iya{=yaQta/-kaQta/*=na-kaQta}-ka
外出=TOP	嫌{=COP-PST/-PST/*=COP-PST}-Q
「外出は嫌だったか。」	

6. まとめと今後の課題

以下では5章でみた調査結果や課題をまとめます。

本論文では、三国町方言におけるナ形容詞の活用について、先行研究でも言及されているナ形容詞を中心に、12種類のナ形容詞を調査し、先行研究の問題点を解決するために活用形式を再検討した。

ナ形容詞の語根は自由形態素で、それにコピュラの=naが付属語として接続していると考える。自由形態素の語根がコピュラとしてナとヤとデの3形式を選択していることが可能となり、「ナ型」と「ヤ型」に活用が2種類あるのではなく、語根{=ナ/=ヤ/=デ}のコピュラの選択が、統語環境によって決まるところが見えるようになる。終止形の肯定や連体形の過去肯定では=ナと=ヤがいずれも選択可能だが（例：キレイ{=ナ/=ヤ/=デ}=ワ）、連体形の非過去肯定では=ナだけが選択され（キレイ{=ナ/*=ヤ/*=デ}（人））、否定では=デのみが選択される（キレイ{*=ナ/*=ヤ/=デ}ナイ）。

キレイナカッタのような例（表3で*で記した例）の分析については、ナ形容詞の語根に接続するコピュラ=naが活用すると考える。

調査の結果、「好き」「嫌い」「無理」「嫌」といった特殊なナ形容詞を除く、特性形容詞・

状態形容詞と、「好き」「嫌い」「無理」といった特殊なナ形容詞とで、選択されるコピュラが異なることが分かった。

そして、「嫌」という特殊なナ形容詞に関しては、他のナ形容詞とは異なり、唯一活用が見られた。

調査協力者の KT 氏、YN 氏はどちらも 50 代の方であり、ナ形容詞のコピュラが「=na」をとる活用を日常会話でほぼ用いないとのことであった。ナ形容詞のコピュラが「=ya」をとる活用が自然であり多用されることには、今尾(2009)と同様に示されたが、「=na」と「=ya」の使い分けを詳しく調査することができなかった。KT 氏曰く、80~90 代の高齢者層は「=na」を用いた会話をしており、話しているのを聞いたことはあるとのことであった。「=na」を用いているであろう高齢者層への調査をし、三国町方言のナ形容詞の活用、コピュラの使い分けを詳しく記述することが今後の課題であると考える。

また、ナ形容詞についてのみ調査を行ったため、イ形容詞や名詞述語の調査が未完了であり、調査の余地がある。イ形容詞、名詞述語の調査、記述を完成させたのち、ナ形容詞の記述と比較、再検討することが今後必要であると考える。

付録

以下では、筆者の調査で得られた三国町方言の音声を、ナ形容詞の活用を調査する際に用意した例文をそれぞれ語幹ごとにまとめたものを記述した。

○調査例文とその音声

iya 「嫌」

	標準語訳	音声
非過去肯定	水泳は嫌だ。	suieewa iyaya.
過去肯定	水泳は嫌だった。	suieewa iya{yatta/katta}.
非過去否定	水泳は嫌でない。	suieewa iyade{nai/nee}.
過去否定	水泳は嫌でなかった。	suieewa iyadenakatta.
非過去連体形	嫌な音がする。	Iyana otoga suru.
過去連体形	嫌だった運動をする。	iya{yatta/katta} undouo suru.
非過去推量	寒い日の外出は嫌だろう。	samui hino gaisyutuwa iyayaroo
過去推量	寒い日の外出は嫌だっただろう。	samui hino gaisyutuwa iya{yatta/katta}yaroo.
仮定（「tara」）	外出が嫌だったら家にいろ。	gaisyutuga iya{yatta/katta}ra ieni iro
仮定（「nara」）	外出が嫌なら家にいろ。	gaisyutuga iyanara ieni iro
中止	冬は嫌で、夏は好きだ。	huyuwa iyade natuwa sukiya.
「naru」への接続	寒くて外出が嫌になる。	samukute gaisyutuga iyaninaru
様態	外出は嫌そうだ。	gaisyutuwa iyasooya.
「sugiru」への接続	外出が嫌すぎる。	gaisyutuga iyasugiru.
非過去疑問	外出は嫌か。	gaisyutuwa iya{ka/naka}.
過去疑問	外出は嫌だったか。	gaisyutuwa iya{yatta/katta}ka.

suki 「好き」

	標準語訳	音声
非過去肯定	夏は好きだ。	natuwa sukiya.

過去肯定	昔は好きだった。	mukasiwa sukiyatta.
非過去否定	今でも好きでない。	imademo sukide{nai/nee}.
過去否定	昔は好きでなかった。	mukasiwa sukidenakatta.
非過去連体形	好きなおにぎりの具はおかかだ。	sukina onigirino guwa okakaya.
過去連体形	昔好きだった音楽を聴く。	mukasi sukiyatta ongakuo kiitemiru.
非過去推量	ハンバーグは好きだろう。	hanbaaguwa sukiyaroo.
過去推量	ハンバーグは好きだっただろう。	hanbaaguwa sukiyattayaroo.
仮定 (「tara」)	夏が好きだったら良かった。	natuga sukiyattara yokatta.
仮定 (「nara」)	夏が好きなら良かった。	natuga sukinara yokatta.
中止	猫は好きで、犬は苦手だ。	nekowa sukide inuwa nigateya.
「naru」への接続	聴けば聴くほど好きになる。	kikeba kikuhodo sukininaru.
様態	いかにも好きそうだ。	ikanimo sukisooya.
「sugiru」への接続	全作品観るくらい好きすぎる。	zensakuhin mirukurai sukisugiru.
非過去疑問	数学は好きか。	suugakuwa sukika.
過去疑問	数学は好きだったか。	suugakuwa sukiyattaka.

genki 「元気」

	標準語訳	音声
非過去肯定	あの人は元気だ。 あの人は元気だね。	ano hitowa genkiya. ano hitowa katainoo.
過去肯定	あの人は元気だった。	ano hitowa genki[yatta/nakatta]. /ano hitowa katakatta.
非過去否定	あの人は元気でない。	ano hitowa genkide{nai/nee}.
過去否定	あの人は元気でなかった。	ano hitowa {genkidenakatta/katakunakatta}.
非過去連体形	元気な猫だ。	genkina nekoya.

過去連体形	元気だった犬が病気になった。	{genkiyatta/katakatta} inuga byookininatta.
非過去推量	あの人は今も元気だろう。	ano hitowa imamo {genki{yaroo/nayaroo}/kataiyaroo}.
過去推量	昨日までは元気だったんだろう。	kinoo madewa {genki{yatta/nakatta}/katakatta}yaroo.
仮定（「tara」）	あの人が元気だったら遊ぼう。	ano hitoga genki{yatta/nakatta}ra asoboo.
仮定（「nara」）	あの人が元気なら遊ぼう。	ano hitoga gankinara asoboo.
中止	あの人は元気で、猫は元気でない。	ano hitowa genkide nekowa genkide{nai/nee}.
「naru」への接続	たくさん寝たら元気になる。	takusan netara genkininaru.
様態	あの人は元気そうだ。	ano hitowa genkisooya.
「sugiru」への接続	あの人は元気すぎる。	ano hitowa genkisugiru.
非過去疑問	あの人は元気か。	ano hitowa genki{ka/naka}. ano hitowa kataikeno.
過去疑問	あの人は元気だったか。	ano hitowa {genkiyatta/katakatta}ka.

raku 「楽」

	標準語訳	音声
非過去肯定	畑仕事は楽だ。	hatake sigotowa rakuya.
過去肯定	畑仕事は楽だった。	hatake sigotowa raku{yatta/nakatta}.
非過去否定	畑仕事は楽でない。	hatake sigotowa rakude{nai/nee}.
過去否定	畑仕事は楽でなかった。	hatake sigotowa rakudenakatta.
非過去連体形	楽な仕事を探す。	rakuna sigotoo sagasu.
過去連体形	楽だった仕事はない。	rakuyatta sigotowa nai.

非過去推量	バイトは楽だろう。	baitowa raku{yaroo/nayaroo}.
過去推量	あの仕事は楽だっただろ う。	ano sigotowa raku{yatta/nakatta}yaroo.
仮定 (「tara」)	畠仕事が楽だったらいいの に。	hatake sigotoga raku{yattara/nakattara} iinoni.
仮定 (「nara」)	畠仕事が楽ならいいのに。	hatake sigotoga rakunara iinoni,
中止	車通勤は楽で、自転車通勤 は大変だ。	kuruma tuukinwa rakude zitensya tuukinwa taihenya.
「naru」への接続	車を買ったら楽になる。	kurumao kattara rakuninaru.
様態	車通勤は楽そうだ。	kuruma tuukinwa rakusoooya.
「sugiru」への接続	人生は楽すぎる。	zinseewa rakusugiru.
非過去疑問	畠仕事は楽か。	hatake sigotowa rakuka.
過去疑問	畠仕事は楽だったか。	hatake sigotowa raku{yatta/nakatta}ka.

muri 「無理」

	標準語訳	音声
非過去肯定	結婚は無理だ。	kekkonwa muriya.
過去肯定	結婚は無理だった。	kekkonwa muriyatta.
非過去否定	結婚は無理でない。	kekkonwa muride{nai/nee}.
過去否定	結婚は無理でなかった。	kekkonwa muridenakatta.
非過去連体形	無理な結婚はしない。	murina kekkonwa sinai.
過去連体形	無理だった早起きができ た。	muriyatta hayaokiga dekita.
非過去推量	結婚は無理だろう。	kekkonwa muriyaroo.
過去推量	結婚は無理だっただろう。	kekkonwa muriyattayaroo.
仮定 (「tara」)	結婚は無理だったら諦め る。	kakkonwa muriyattara akirameru.
仮定 (「nara」)	結婚は無理なら諦める。	kekkonwa murinara akirameru.

中止	カブト虫は無理で、クワガタムシは好きだ。	kabutomusiwa muride kuwagatamusiwa sukiya.
「 <i>naru</i> 」への接続	虫が無理になる。	musiga murininaru.
様態	結婚は無理そうだ。	kekkonwa murisooya.
「 <i>sugiru</i> 」への接続	結婚は無理すぎる。	kekkonwa murisugiru,
非過去疑問	結婚は無理か？	kekkonwa murika.
過去疑問	結婚は無理やったか？	kekkonwa muriyattaka.

kirai 「嫌い」

	標準語訳	音声
非過去肯定	ピーマンは嫌いだ。	piimanwa kiraiya.
過去肯定	ピーマンは嫌いだった。	piimanwa kiraiyatta.
非過去否定	ピーマンは嫌いでない。	piimanwa kiraide{nai/nee}.
過去否定	ピーマンは嫌いでなかつた。	piimanwa kiraidenakatta.
非過去連体形	嫌いな野菜はピーマンだ。	kiraina yasaiwa piimanya.
過去連体形	嫌いだったピーマンを食べる。	kiraiyatta piimanwo taberu.
非過去推量	ピーマンは嫌いだろう。	piimanwa kiraiyarou.
過去推量	ピーマンは嫌いだっただろう。	piimanwa kiraiyattayaroo.
仮定（「 <i>tara</i> 」）	ピーマンが嫌いだったらつらい。	piimanga kiraiyattara monogoi.
仮定（「 <i>nara</i> 」）	ピーマンが嫌いならつらい。	piimanga kirainara monogoi.
中止	ピーマンは嫌いで、ピータンは好きだ。	piimanwa kiraide piitanwa sukiya.
「 <i>naru</i> 」への接続	ピーマンを嫌いになる。	piimanwo kiraininaru.
様態	あの子どもはピーマンが嫌いそうだ。	ano kodomowa piimanga kiraisooya.
「 <i>sugiru</i> 」への接続	ピーマンが嫌いすぎる。	piimanga kiraisugiru.
非過去疑問	ピーマンは嫌いか。	piimanwa kiraika.
過去疑問	子どもの頃、ピーマンは嫌いだったか。	kodomono koro piimanwa kiraiyattaka.

sizuka 「静か」

	標準語訳	音声
非過去肯定	ここは車が通らないで静かだ。	kokowa kurumaga toorande sizukaya.
過去肯定	あそこは車が通らないで静かだった。	akowa kurumaga toorande sizuka{yatta/nakatta}.
非過去否定	ここは車が通るで、あまり静かでない。	kokowa kurumaga toorude amari sizukade{nai/nee}.
過去否定	あそこは車が通るで、あまり静かでなかった。	akowa kurumaga toorude amari sizukadenakatta.
非過去連体形	ここは車が通らない静かなところだ。	kokowa kurumaga tooran sizukana tokoya.
過去連体形	あそこは昔車が通らない静かだったところだ。	akowa mukasi kurumaga tooran sizukayatta tokoya.
非過去推量	あそこは車が通らないで静かだだらう。	akowa kurumaga toorande sizuka{yaroo/nayaroo}.
過去推量	あそこは昔、車が通らないで静かだだらう。	akowa mukasi kurumaga toorande sizuka{yattayaroo/nakattayaroo}.
仮定 (「tara」)	ここがもっと静かだったら良かったのに。	kokoga motto sizukayattara yokattanoni.
仮定 (「nara」)	そこがそんなに静かなら、私も住んでみたい。	sokoga sonnani sizukanara watasimo sundemitai.
中止	ここは静かで、あそこはうるさい。	kokowa sizukade akowa urusai.
「naru」への接続	ここは深夜になったら、静かになる。	kokowa sinyaninattara sizukaninaru.
様態	あそこは静かそうだ。	akowa sizukasooya.
「sugiru」への接続	あそこは静かすぎる。	akowa sizukasugiru.
非過去疑問	あそこは静かか。	akowa sizuka{ka/naka},
過去疑問	あそこは静かだったか。	akowa sizuka{yattaka/nakattaka}.

sinpai 「心配」

	標準語訳	音声
--	------	----

非過去肯定	テストが心配だ。	tesutoga sinpaiya.
過去肯定	テストが心配だった。	tesutoga sinpai{yatta/nakatta}.
非過去否定	テストは心配でない。	tesutowa sinpaide{nai/nee}.
過去否定	テストは心配でなかつた。	tesutowa sinpайденакатта.
非過去連体形	心配な天気だ。	sinpaina tenkiya.
過去連体形	心配だったテストが終わつた。	sinpaiyatta tesutoga owatta.
非過去推量	テストの点数が心配だろう。	tesutono tensuuga sinpai{yaroo/nayaro}.
過去推量	テストの点数が心配だっただろう。	tesutono tensuuga sinpai{yatta/nakatta}yaroo.
仮定 (「tara」)	テストが心配だったら、勉強しなさい。	tesutoga sinpaiyattara benkyoosine.
仮定 (「nara」)	テストが心配なら、勉強しなさい。	tesutoga sinpainara benkyoosine.
中止	テストは心配で、授業は心配でない。	tesutowa sinpaide jugyoowa sinpaide{nai/nee}.
「naru」への接続	テストの結果が心配になる。	tesutono kekkaga sinpaininaru.
様態	あの人は心配そうだ。	ano hitowa sinpaisouya.
「sugiru」への接続	テストの結果が心配すぎる。	tesutono kekkaga sinpaisugiru.
非過去疑問	テストの点数は心配か。	tesutono tensuuwa sinpai{ka/naka}.
過去疑問	テストの点数は心配だったか。	tesutono tensuuwa sinpai{yatta/nakatta}ka.

kirei 「綺麗」

	標準語訳	音声
非過去肯定	この桜は綺麗だ。	kono sakurawa kireya.
過去肯定	あの桜は綺麗だった。	ano sakurawa kiree{yatta/nakatta}.

非過去否定	あの部屋は綺麗でない。	ano heyawa kireede{nai/nee}.
過去否定	あの部屋は綺麗でなかつた。	ano heyawa kireedenakatta.
非過去連体形	とても綺麗な桜だ。	hidde kireena sakuraya.
過去連体形	綺麗だった部屋がもう汚い。	kireiyatta heyaga moo kitanai.
非過去推量	毎日掃除しているので綺麗だろう。	mainiti soojisiterude kiree{yaroo/nayaroo}.
過去推量	今年の紅葉は綺麗だっただろう。	kotosino kooyoowa kiree{yatta/nakatta}yaroo.
仮定 (「tara」)	部屋が綺麗だったら、人を呼んだ。	heyaga kiree{yattara/nakattara} hitoo yonda.
仮定 (「nara」)	部屋が綺麗なら、人を呼んだ。	heyaga kireenara hitoo yonda.
中止	ここは綺麗で、あそこは汚い。	kokowa kireede akowa kitanai.
「naru」への接続	もっと磨けば綺麗になる。	motto migakeba kireeninaru.
様態	あそこは綺麗そうだ。	akowa kireesooya.
「sugiru」への接続	あの人の肌は綺麗すぎる。	ano hitono hadawa kireesugiru.
非過去疑問	あそこの桜は綺麗か。	akono sakurawa kiree{ka/na}.
過去疑問	あそこの桜は綺麗だったか。	akono sakurawa kiree{yatta/nakatta}ka.

mazime 「真面目」

	標準語訳	音声
非過去肯定	あの人は真面目だ。	ano hitowa mazimeya.
過去肯定	あの人は真面目だった。	ano hitowa mazime{yatta/nakatta}.
非過去否定	あの人は真面目でない。	ano hitowa mazimedede{nai/nee}.

過去否定	あの人は真面目でなかつた。	ano hitowa mazimedena katta.
非過去連体形	真面目な人だ。	mazimena hitoya.
過去連体形	真面目だった人だ。	mazimeyatta hitoya.
非過去推量	あの人は真面目だろう。	ano hitowa mazime{yaroo/nayaro}.
過去推量	昔は真面目だっただろう。	mukasiwa mazime{yatta/nakatta}yaroo.
仮定（「tara」）	もう少し真面目だったらしい。	moo sukosi mazime{yattara/nakattara} ii.
仮定（「nara」）	もう少し真面目ならいい。	moo sukosi mazimenara ii.
中止	あの人は真面目で、私は不真面目だ。	ano hitowa mazimedea watasiwa humazimeya.
「naru」への接続	年をとったら真面目になる。	tosio tottara mazimeninaru.
様態	あの人は真面目そうだ。	ano hitowa mazimesooya.
「sugiru」への接続	あの人は真面目すぎる。	ano hitowa mazimesugiru.
非過去疑問	あの人は真面目か。	ano hitowa mazime{ka/naka}.
過去疑問	あの人は真面目だったか。	ano hitowa mazime{yatta/nakatta}ka.

zeetaku 「贅沢」

	標準語訳	音声
非過去肯定	このホテルの食事は贅沢だ。	kono hoteruno syokuziwa zeetakuya.
過去肯定	あのホテルの食事は贅沢だった。	ano hoteruno syokuziwa zeetaku{yatta/nakatta}.
非過去否定	暮らしは贅沢でない。	kurasiwa zeetakude{nai/nee}.
過去否定	暮らしは贅沢でなかった。	kurasiwa zeetakudenakatta.
非過去連体形	旅行中は贅沢な暮らし。	ryokoo tyuuwa zeetakuna kurasiya.

過去連体形	贅沢だった頃を思い出す。	zeetakuyatta koroo omoi dasu.
非過去推量	ホテルの食事は贅沢だろう。	hoteruno syokuziwa zeetaku{yaroo/nayaro}.
過去推量	あのホテルの食事は贅沢だっただろう。	ano hoteruno syokuziwa zeetaku{yatta/nakatta}yaroo.
仮定（「tara」）	食事が贅沢だったら太る。	syokuziga zeetaku{yattara/nakattara}hutoru,
仮定（「nara」）	食事が贅沢なら太る。	syokuziga zeetakunara hutoru.
中止	昔は贅沢で、今は貧乏だ。	mukasiwa zeetakude imawa binbooya.
「naru」への接続	暮らしが贅沢になる。	kurasiga zeetakuninaru.
様態	あの人の暮らしは贅沢そうだ。	ano hitono kurasiwa zeetakusooya.
「sugiru」への接続	このホテルの食事は贅沢すぎる。	kono hoteruno syokuziwa zeetakusugiru.
非過去疑問	ホテルの食事は贅沢か。	hoteruno syokuziwa zeetaku{ka/naka}.
過去疑問	ホテルの食事は贅沢だったか。	hoteruno syokuziwa zeetaku{yatta/nakatta}ka.

nigiyaka 「賑やか」

	標準語訳	音声
非過去肯定	この家は賑やかだ。	kono iewa nigiyakaya.
過去肯定	あの家は賑やかだった。	ano iewa nigiyaka{yatta/nakatta}.
非過去否定	この家は賑やかでない。	kono iewa nigiyakade{nai/nee}.
過去否定	あの家は賑やかでなかつた。	ano iewa nigiyakadenakatta.
非過去連体形	ここは賑やかな場所だ。	kokowa nigiyakana basyoya.
過去連体形	あそこは賑やかだった場所だ。	akowa nigiyakayatta basyoya.

非過去推量	あそこは賑やかだろう。	akowa nigiyaka {yaroo/nayaroo} ,
過去推量	あそこは賑やかだっただろ う。	akowa nigiyaka{yatta/nakatta}yaroo.
仮定 (「tara」)	この場所が賑やかだったら いいのに。	kono basyoga nigiyaka{yattara/nakattara} iinoni.
仮定 (「nara」)	この場所が賑やかならいい のに。	kono basyoga nigiyakanara iinoni,
中止	ここは賑やかで、あそこは 静かだ。	kokowa nigiyakade akowa sizukaya.
「naru」への接続	サーカスが来て賑やかにな る。	saakasuga kite nigiyakaninaru.
様態	あの家は賑やかそうだ。	ano iewa nigiyakasooya.
「sugiru」への接続	あの家は賑やかすぎる。	ano iewa nigiyakasugiru.
非過去疑問	あの家は賑やかか。	ano iewa nigiyaka{ka/na}.
過去疑問	あの家は賑やかだったか。	ano iewa nigiyaka{yatta/nakatta}ka.

参照文献

- 今尾ゆき子 (2009) 「気づかない方言文法：福井県坂井市丸岡町方言における「ナ形容詞」の用法」『福井大学教育地域科学部紀要第 I 部 人文科学（国語学・国文学・中国学編）』59:1-16
- 工藤真由美編 (2007) 『日本語形容詞の文法—標準語研究を超えて』 ひつじ書房
- 小西いづみ (2001) 「富山県笹川方言における形容動詞述語形式一名詞述語と異なる「～ナ」「～ナカッタ」等を中心に—」『国語学』 52(3):30-43
- 小西いづみ (2005) 「石川県小松市松岡町方言における形容詞・形容動詞の活用」『日本語研究』 25:75-90
- 小西いづみ (2014) 「富山県富山市方言」 方言文法研究会(編) 『全国方言文法資料集 (2) 活用体系』 66-74.
- 佐藤茂 (1983) 「福井県の方言」 飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一 (編) 『講座方言学 6 中部地方の方言』 373,国書刊行会
- 下地理則 (2018) 『南琉球宮古語伊良部島方言』 東京:くろしお出版.
- 下地理則 (2020) 「方言研究における例文提示について」『方言の研究』 6 号
- 東条操 (1954) 『日本方言学』 吉川弘文館
- 新田哲夫 (2011) 「福井県三国町安島方言における maffa 《枕》等の重子音について」『音声研究』 15(1):6-15.
- 日本放送協会編 (1966) 『全国方言資料 第 3 卷 (東海・北陸編)』 日本放送出版協会
- 野間純平 (2017) 「石川県能登島方言」 方言文法研究会(編) 『全国方言文法資料集 (3) 活用体系 (2)』 67-77.
- 松倉昂平 (2018a) 「福井県大野市方言」 方言文法研究会(編) 『全国方言文法資料集 (4) 活用体系 (3)』 51-61.
- 松倉昂平 (2018b) 「福井県坂井市三国町安島方言の三型アクセント：付属語のアクセントと型の中和」『国立国語研究所論集』 14:99-123.
- 八亀裕美 (2007) 「形容詞研究の現在」 工藤真由美 (編) 『日本語形容詞の文法—標準語研究を超えて』 53-77.:ひつじ書房
- 八亀裕美 (2008) 『日本語形容詞の記述的研究—類型論的視点から』 明治書院

グロス一覧

ACC	accusative	対格
ADN	adnominal	連体
CND	conditional	条件
CONC	concessive	逆接（確定条件）
CONJEC	conjecture	推量
COP	copula	コピュラ
DAT	dative	与格
GEN	genitive	属格
IMP	imperative	命令
INF	infinitive	連用
NEG	negative	否定
NOM	nominative	主格
NPST	non-past	非過去
PST	past	過去
Q	question particle	疑問助詞
SEEM	seeming	様態
SEQ	sequential	中止
SFP	sentence final particle	終助詞
TOP	topic	主題
-	affix boundary	接辞境界
=	clitic boundary	接語境界

謝辞

本論文の執筆にあたり、大変多くの方々にお世話になりました。深く感謝申し上げます。

指導教官の下地理則先生は、一つ一つ丁寧かつ論理的に指導してくださいました。3年次のゼミ配属から卒業論文のテーマ決定、執筆の最終段階まで手厚くお世話してくださいました。そして、新型コロナウィルス感染症の流行による大変な状況の中、なかなか相談や報告に来ない私に根気強く向き合ってくださいました。下地先生の指導のおかげで、方言を記述する難しさや楽しさを感じながら本論文を執筆することができました。

研究室の先生方である、久保智之先生、上山あゆみ先生、太田真理先生は、講義や演習といった授業を通して言語学の様々な分野の基礎をご教授くださいました。

福井県の方言調査を行うにあたり、調査に協力してくださいった話者の方々に心からお礼申し上げます。電話での調査ということで負担をかけてしまったにもかかわらず、快く協力してくださいったYN氏、福井県の方言を調査するために、自身の人脈を使って福井県坂井市の方々に連絡を取ってくださいったKT氏に心から感謝申し上げます。

研究室の先輩方・同期・後輩にも大変お世話になりました。占部由子氏、松岡葵氏、宮岡大氏は、ゼミの内外を問わず言語学の知識を分かりやすく教えてくださいり、また、ゼミ配属や卒業論文のテーマ決定の際には様々なご助言をくださいました。井上恵利佳氏は他ゼミの先輩であるにもかかわらず、たくさん励ましてくださいました。ゼミ同期のみなさんとは、各々の論文執筆などについて語りながら、卒業論文提出までお互い努力することができました。立花千夏氏は最終稿に対して厳密なチェックをしてくださいました。

上記の多くの方々のおかげで卒業論文を執筆することができました。感謝申し上げます。

最後に、私をここまで育て、大学に通わせてくださいった母に感謝申し上げます。